

救急業務や救急医療への理解を深めていただくために、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間（今年は9月3～9日）を「救急医療週間」と定め、全国でさまざまな取り組みが実施されています。

■加西消防署管内の実施事業

●優良救急隊員表彰

北はりま消防組合消防長表彰／9月8日（金）
市医師会長・加西消防署長表彰／9月8日（金）

●普通救命講習会／随時開催

●市内巡回、広報誌、ポスター、加西消防署前の電光掲示板などによる広報活動

■普通救命講習会「あなたが救命リレーのスタートを」

加西消防署は、毎月第3日曜日（9:00～12:00）に心肺蘇生法やAEDの取扱方法などを学ぶ「ハートtoハート講習会」を開催しています（定例講習会加西消防署開催月を除く）。各種団体については、第3日曜日以外の日でも受け付けています。

■AED（自動体外式除細動器）をお貸しします

加西消防署は2台のAEDを貸し出しています。イベント会場にAEDを配置して、参加者や来場者の安全のため、ご利用ください。

貸し出しには、応急手当普及員または普通救命講習修了者が1人以上必要です。

■救急車の正しい利用にご協力を

突然の事故や災難に遭遇すると、人は誰でも慌ててしまいますが、救急車を要請する前に「救急車が本当に必要かどうか」を考えてください。

軽い病気やケガ、タクシー代わりの要請などで救急車が出動中に、1分1秒を争う重症患者が発生した場合、救急車の到着時間が遅れ、悲惨な結果になることも考えられます。救急車の正しい利用に、ご理解とご協力をお願いします。



突然死を防ぐためには

突然死の原因には、大人は主に心臓発作と脳卒中、子どもはケガ・溺水・窒息などの「不慮の事故」があります。

以下のような症状が出た場合は、早めの対応を心がけてください。

心臓発作／胸の真ん中の強い痛み、胸が締め付けられるような圧迫感、息切れ、冷や汗など

脳卒中／体の片側に力が入らない、しびれを感じる、言葉がうまく話せない、物が見えにくい、激しい頭痛など

■突然死の予防方法

- ・症状が出たら早期に救急車を要請し、医療機関で受診する（早いほど助かる可能性が高くなります）。
- ・子どもから目を離さない。

■暑い日は熱中症に注意

熱中症で死亡することもあります。こまめな水分補給と室内の適切な温度調整で予防をしてください。

自殺予防週間（9月10日から16日）

問合せ先／福祉企画課☎42-8724 FAX43-1801
fukuki@city.kasai.lg.jp

毎年、全国で自殺により多くの尊い命が失われています。背景は、経済、生活、健康、家庭問題などさまざまな要因が複雑に関与し、うつ病やアルコール依存症等心の病気が関係していることもあります。

「夜眠れない」「気分が沈んでいる」「お酒の量が増えた」等、あなたの身近に悩みや問題を抱えてつらい思いをしている人はいませんか。一人ひとりが身近な人の様子を気にかけて、こころのサインに気づくことが、いのちを守ることに繋がります。

■かけがえのない「いのち」を守るためには
気づく／家族や仲間の変化に気づいて、声をかける。

聴く／本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。
つなぐ／本人の気持ちを受け止めてから、専門家や相談機関に相談するように促す。

見守る／温かく寄り添い、じっくり見守る。

～あなたが生きている それが一番大事 ひとりで悩まず相談してください～

- 県ののちと心のサポートダイヤル☎078-382-3566 月～金 18:00～翌8:30 土・日・祝 24時間
- 市こころの健康相談窓口（健康課）☎42-8723 平日 8:30～17:15



泌尿器科からのお知らせ

■おしっこで悩みのある方は、泌尿器科で診察を

熱中症予防のために「水を飲み水を飲み」と若いものに言われ、なおいっそうおしっこの悩みが増加しているおじいちゃんやおばあちゃん、はたまた私はまだ若いのに最近トイレに行くとか何か調子が変わり始めたお母さん、ストレスを感じたらトイレばかり行ってしまうサラリーマンのお父さん、いらっしゃいませんか。

もしかしたら、病院で検査や治療をしなければいけない病気にかかっているかもしれません。

症状をとるお薬はたくさんあります。ドラッグストアでもお金を払えば手に入れることはできます。内科のお医者さんに相談されているかもしれません。ただ、そのお薬はあくまで症状を軽くするためのお薬で、病気を治すというお薬ではないかもしれません。

おしっこで悩みのある方は、一度病院に足をお運びください。

また、どこかの検診で血尿、蛋白尿、腎機能異常、糖尿などの指摘があった場合は、わずかな異常でも大病が隠れていることがあります。これぐらいの血尿大丈夫と

いうことは絶対にありません。尿にごくわずかな血尿でも膀胱がんの可能性もあります。

周りの方で同じ症状があり、「大丈夫」と言われても安心してはいけません。泌尿器科を受診して、異常がないかを確認してください。

■ 8月から武縄淳医師が赴任

8月から泌尿器科の診療体制が変わり、新しく武縄淳医師が赴任したことで、より高度で幅の広い治療方針が示しできると思います。マンパワーの問題で今までできなかった入院して行う検査や手術のことも徐々に再開を検討しています。

都会と同じような高度な医療をできるとは思いませんが、それぞれの方に合わせた医療提供を行います。

外来診療の日程は次の通りです。お気軽にご相談ください。



武縄淳医師

曜日	月	火	水	木	金
担当医	竹内	武縄	竹内	交替で診察 (初診のみ)	武縄

(泌尿器科部長 竹内賢)

9月24日から30日は「結核予防週間」

問合先／健康課(健康福祉会館内) ☎42-8723
FAX42-7521 kenko@city.kasai.lg.jp

「結核」は現在も日本最大の感染症です。日本国内では、今でも1日に50人が新たに発病し、5人が命を落としています。結核はひとつではありません。

北播磨地域では、平成28年度に36人の新規登録患者が発生し、死亡例もありました。

「結核」を過去の病気と思わず、右のことに気をつけ予防に努めましょう。

■ 予防法

- ①食事、運動、休養など健康管理をして、病原体への抵抗力を高める。
- ②1歳までにBCG接種を受ける。
- ③咳や痰、微熱などの症状が2週間以上続くときは早めに医療機関を受診する。
- ④年に一度は胸部検診を受ける。

※町ぐるみ健診(20歳以上)、医療機関健診(40歳以上)で胸部検診を受けることができます。詳しくは、広報かさい4月号と共に配布の「健診のお知らせ」や市ホームページをご覧ください。

加西ぶどうが最盛期

加西産のぶどうが、収穫の最盛期を迎えています。特産の加西ゴールデンベリーAは、かさい愛菜館などで9月10日頃まで販売が続き、その後はシャインマスカットなどの大粒が店先に並びます。期間中は市内外から多くの方が加西ぶどうを求めて来訪されます。

また、近年は新規就農者などの参入により多くの若者がぶどう作りに取り組んでいます。



新規就農者が収穫するゴールデンベリーA